

## 1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

2014 年度上半期の検察庁による犯罪統計の結果、総被害認知件数は前年比 0.8 パーセント減少したものの強盗・恐喝・ひったくりの犯罪にあつては前年比 12.8%増加しており、邦人居住区であるサンティアゴ東部地区の住居に対する強窃盗事件が 25.9%増加した。

アディマーク社による国民に対するアンケート結果では、40.2%の家庭が盗難被害に遭った、もしくは同未遂被害に遭ったと回答し、前回の 37.9%を上回る結果となっていることから引き続き盗難被害に対する注意が必要である。

また、爆弾を使用して ATM 機を破壊の上、現金を強取する事案や拳銃を使用して現金輸送車を襲撃する事件も後を絶たず、8 月 12 日には、サンティアゴ空港から北部へ ATM 機用の現金を輸送する際に、武装強盗に襲われチリ共和国史上最高額の 60 億ペソが盗まれる強盗事件も発生したように犯罪形態が、より凶悪化・組織化している傾向にある。

爆弾事件では、毎年 9 月 11 日は、ピノチェットによる軍事クーデター日であり、その数日前から爆弾事件や放火事件等が多発するが、今年は、9 月 8 日に地下鉄 1 号線エスクエラ・ミリタール駅において大きな爆弾事件が発生し、14 名が負傷する等治安情勢が悪化している。

## 2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 7 月 4 日 (金) 午後 1 時 45 分頃、サンティアゴ市プロビデンシア通りの銀行で会社の用務員が高額を引き出したところ、銀行内に控えていたペルー人の窃盗団が被害者にヨーグルトをつけた。被害者は、一旦引き出した現金を銀行の窓口に置いておいたところ、犯人は拭くのを手伝うと見せかけ、現金袋を似たものとしり替え逃走した。被害者が気づき犯人を追いかけ、助けを求めたところちょうど通りかかった警察官に逮捕された。この窃盗団は 6 月 23 日に観光目的でチリに入国していた。共犯者 2 人は逃走した。

(2) 7 月 17 日 (木) 午前 6 時頃、サンティアゴ市ラス・コンデス区に所在するモールに設置してある ATM 機が爆破され現金を奪われた。

(3) 7 月 17 日 (木) 午前 8 時 15 分頃、サンティアゴ市ラ・フロリダ区にあるスーパーマーケットにおいて現金高額輸送車が拳銃を所持した強盗犯人に襲撃され、200,000,000 ペソが奪われた。警備員 1 名が銃弾を受け負傷した。

(4) 7 月 17 日 (木) 夜、元ピノチェット大統領の娘とその夫が、サンティアゴ市ロバルネチェア区にあるレストランで夕食後、車を駐車していたショッピングセンターの駐車場で、夫は銃で、娘はナイフを頸部に当てられて脅され車を奪われた。

(5) 8月3日(日)午前9時40分頃、サンティアゴ市ラ・デヘサにある両替所に5人組の強盗が押し入り、警備員を脅し現金を奪おうとしたが失敗したので、ガラス窓を壊し中に侵入して16,000,000ペソを奪って逃走した。

(6) 8月12日午前6時30分頃、サンティアゴ空港内で高額現金輸送会社の職員が北部への銀行用の現金を商用機に積み込む作業を行っていたところ、戦闘用の銃を所持した覆面の6人組に脅され、60億ペソとチリ史上最大の強盗事件が発生した。空港制限区域では、拳銃を所持できない規則になっており、無抵抗であったので人的被害は無かった。

(7) 8月26日(火)午前5時40分、サンティアゴ市サンパブロ通りの銀行内のATM機をアセチレンガスを充満させて爆発させたが、現金を奪えずに逃走した。

(8) 8月27日(水)午後9時頃、サンティアゴ市セリージョス区のスーパー内のATM機をガスで充満させて爆破して強奪しようとした5人組とたまたま同所で買い物中の警察官と銃撃戦となり犯人1名が死亡した。

(9) 9月3日(水)午後、サンティアゴ市ビタクラ区において、車両で信号待ちしていた女性が、3人組にスタンガンで倒され車を奪われた。犯人はその後レコレタ区で逮捕された。

(10) 9月6日(土)午前9時20分頃、サンティアゴ市ラ・レイナ区のホームセンターに覆面した4人組の強盗が押し入り、ATM機に入金するための高額現金輸送車の警備員を銃で脅し、80,000,000ペソを奪い逃走した。

(11) 9月15日(月)午前11時20分頃、サンティアゴ市コンチャリ区の銀行で車の購入のため高額現金を引き出したところを4人組に目を付けられ、車店で襲われ10,000,000ペソを奪われた。被害者は、右肩に発砲され負傷した。

(12) 9月16日(火)午前5時30分頃、プロビデンスシア区地下鉄ペドロ・デ・バルディビア駅近くのATM機を爆破させたが、犯人は現金を取り出せずに逃走した。

(13) 9月16日(火)午前6時50分頃、ビタクラ区ビタクラ通りにある薬局のATM機を爆破して現金を奪おうとしたが、破壊できずに逃走した。

(14) 9月17日(水)午前1時20分頃、エスタシオンセントラル区マトゥカナ通りにある質屋に強盗が押し入り、金庫をバーナーで切断して8,285,000,000ペソを奪い逃走した。

(15) 9月24日(水)午後9時15分頃、ラス・コンデス区モールの宝石店に覆面をした強盗が棍棒や斧で入口を破壊して押し入り、売上金を数えていた店員を銃で脅し、宝石及び現金総額150,000,000ペソ相当を奪い逃

走した。

(16) 9月24日(水)昼頃、プダウエル区ベスプシオ通りの銀行に、マスク、ヘルメットで顔を隠した6人組が銃を持って押し入り、警備員を殴って倒し、警備員の銃を奪い、現金20,000ドル及び7,000ユーロを奪い逃走した。

(17) 9月24日(水)午前11時30分頃、プロビデンス区のある建築家の家に強盗が押し入り、現金20,000,000ペソ、貴金属及び16挺の家人のコレクションの銃を盗み逃走した。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 7月13日(日)、首都圏地下鉄1号、終着駅であるロス・ドミニコス駅車両内の座席の下にケーブルが見えたリュックサックが放置されているのを車内点検中の職員が発見し警察に通報したが、その数分後にこれが爆発した。乗客は全て降車していたので人的被害は無かった。爆発物は、消火器爆弾であり、付近から個人関係事件を仄めかす内容のビラが発見された。

(2) 7月21日(月)夜、サンティアゴ市地下鉄サンタアナ駅近くのサンタアナ教会前に仕掛けられた爆弾が爆発し、教会の入口が破壊されたが負傷者は無かった。付近からスペインで爆弾を仕掛け逮捕されている、チリ人のモニカ・カバージョとフランシスコ・ソラールの二人に触れた内容のビラが発見された。

(3) 7月22日(火)7時頃、サンティアゴ市プロビデンス区アルミランテ・ウルタド通りにある保育園の外で爆発物が発見された。警察の特殊部隊により処理された。サンタアナ教会前での爆発物と似ていた。

(4) 7月23日(水)午前0時20分と午前1時15分にサンミゲル区で路上駐車中の車が放火され、付近から「ニニョス・ビチョスの破壊集団」からの声明文が発見された。その内容は、環境団体への批判、スペインで拘束中のテロ行為を行ったチリ人2人、銀行強盗殺人の服役犯ハンス・ニエミエイルのことを忘れないよう示唆してあった。

(5) 8月11日(月)午後11時頃、サンティアゴ市の第1警察署と健康省の近くで消火器爆弾が爆発した。その後同市エル・ボスケにある第39署の近くでも時限式の消火器爆弾が爆発した。

(6) 9月8日(月)午後2時頃、地下鉄1号線エスクエラ・ミリタール駅のゴミ箱に設置された消火器爆弾が爆発し、14名が負傷した。

(7) 9月9日(火)午後9時頃、ビーニャデルマル市ゴメス・カレーニョ地区にあるスーパーマーケット入口に設置してあるゴミ箱に仕掛けられた爆弾が爆発し、掃除婦の女性が聴覚障害の軽傷を負った。

(8) 9月26日(金)午前1時頃、サンティアゴ市ジュンガイ地区において、

爆弾が爆発し、29歳のチリ人男性が死亡した。男性は、麻薬中毒者であるがアナーキストではなく、目的、原因は不明。

#### 4 薬物事案

(1) 8月26日(火)、チリ北部ウワラナ150キロ地点(アタカマ砂漠)において、故障しそうな車両を警察が発見し、注意をしたところ男が逃走した。車内から502キロのコカインと675キロのマリファナが発見された。

(2) 9月1日(月)、コキンボ州南部のピチダンギにおいて刑事警察と首都圏南部検察庁が大量のマリファナとコカインを押収し5人逮捕した。麻薬は首都圏に運び込まれるところで、合計2.4トン。

(3) 9月3日(水)、刑事警察(PDI)がメリーピージャの料金所で検問中、車中に隠匿していたマリファナ7キロを押収し、エクアドル、ドミニカ人3人を逮捕した。ドミニカ人は、チリの偽造身分証明書を所持していた。

(4) 9月8日(月)、警察による麻薬一斉取締りにより、アリカ州、タラパカ州、アントファガスタ州、アタカマ州において合計74キロ以上のマリファナ、コカイン、総額800,000,000ペソ相当を押収した。

#### 5 邦人被害

(1) 7月16日(水) 15時35分頃、邦人女性がラス・コンデス区プレシデンテ・リエスコ通りを歩行中、鞆から携帯電話を取りだしたところを前方から向かってきた自転車に乗った男に強奪された。

(2) 7月31日(木) 14時頃、ラス・コンデス区に所在するモール内のスーパーマーケット店内で邦人女性が買い物中、男に話しかけられ、気が付いたらベビーカーに掛けていた大型バッグから財布がなくなっていた。

(3) 8月10日(日) 午後1時頃、中南米を旅行中の日本人男性が、カラマ市内の食堂で食事中、となりの椅子の上に置いておいたパスポート等在中の肩掛けカバンを盗まれた。

(4) 8月24日(日) 12時30分頃、邦人男性が、友人とバルパライソのパブロ・ネルーダ記念館を観光している間、車を路駐し、次にレストランに向かっているところでパンクに気付き、大学の前でタイヤを交換している間に車中に置いておいた手提げカバンがなくなっていた。

(5) 9月2日午後3時頃、南米各地を旅行中の邦人男性が、イキケのバスターミナルでバックをバスに積み込む際、担当者に荷物を渡したときに財布をすられた。

(6) 9月4日午前5時30分頃、邦人男性が、サンティアゴ空港に到着し、迎いの車を待っていたところ、若いチリ人が、「スペイン語を話すか。」と話し

かけて来たが、相手にしないでいたところ、道を教えてくれとか携帯の電池が切れているので地図がわからないとか話してきた。思わずその携帯を見てしまったところ、背後に廻っていた男と一緒にいきなり走り出し、駆けつけたタクシーに乗って逃走した。後ろに置いていた荷物を確認したところパスポート、パソコン等在中の機内持ち込み用カバンを盗られていた。

(7) 9月19日(金)午前11時20分頃、邦人家族がビーニャデルマルの公園前の Av. Peru 通りに車を止めて海を見に出て、4～5分後に車に戻ったところ、車中に入れておいた現金、パスポート等在中の小バッグが盗まれていた。

(8) 9月21日午後4時頃、メキシコから中南米を旅行中の邦人女性が、バルパライソのアーセソールの中で男に声をかけられ、「どこから来たのか。」等と聞かれた後、アーセソールを降りたところで別れたが、丘の上で写真を撮っていたところ、少し離れたところにその男が立っていたのを確認したとき、突然別の男が近づいてきて、いきなりたすき掛けしていた現金、カード等在中のポーチを奪われ、更に手に持っていたカメラも奪われそうになったので、抵抗したところ倒されて奪われた。その後その男2人は走って逃走した。